

会議録

会議の名称	西東京市総合計画策定審議会第4回会議
開催日時	平成20年2月22日（金曜日） 午後2時00分から午後4時30分
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 503会議室
出席者	齋藤隆雄会長、奥野英子副会長、水谷俊博副会長、熊田博喜委員、小林康男委員、栗村千代丸委員、高崎三成委員、浜昱子委員、福田和昭委員、松行美帆子委員、本橋定昭委員、渡辺進委員 （事務局）尾崎正男企画部長、飯島享企画政策課長、古厩忠嗣企画政策課課長補佐、森谷修企画政策課主査、増岡利典企画政策課主任
議題	1. 開会 2. 前回の議事録について 3. 資料 （1）調査報告（詳細） （2）施策体系（案） （3）事業（案） （4）後期基本計画構成イメージ
会議資料の名称	（参考1）市民意識調査と施策との関連 （参考2）市民意識調査での自由意見まとめ （参考3）市民意識調査結果 地域別分析 （参考4）西東京市総合計画（後期基本計画）の大きな枠組み 資料1．施策体系（案） 資料2．事業（案） 資料3．後期基本計画構成イメージ
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>発言者名：</p> <p>発言内容</p> <p>1. 開会 齋藤会長 西東京市総合計画策定審議会第4回会議を開催する。</p> <p>2. 西東京市総合計画策定審議会第3回会議録について 齋藤会長 第3回会議の会議録について、意見などがあればお願いしたい。 特にないようなので、承認されたものとして扱うこととする。</p>	

3. 調査結果報告について

事務局

前回会議で説明した市民意識調査結果報告書に関連し、「生活関連施策と市民意識調査の関連」「市民意識調査での自由意見まとめ」「市民意識調査結果 地域別分析」3点の資料を用意したので説明させていただく。

資料説明

<以下 施策体系(案)、事業群(案)について審議を行った。>

斎藤会長

資料の説明があったが、次の施策体系にも関わってくるので、会議を進めたい。

4. 施策体系(案)、事業群(案)について

事務局

施策体系の案と事業群の案について説明させていただく。現在庁内で検討中のため、決定したものではないことを予め説明させていただく。

資料説明

A委員

どういう考えで、「変化の方向性」という表現になったのか。意見を書くとき、変化の方向性のキーワードの地域交流支援これは間違いではないかというところは間違いだという指摘が出てもいいのか。

斎藤会長

ヒアリングや調査結果等を勘案し、方向性や入替えになったと思うが、そのあたりがわかりづらい。

事務局

現段階において事務局で考えている方向性である。委員の皆さまから頂いたご意見を踏まえ見直ししたい。これまで、変化のポイントについては若干議論したが、調査をもとにした変化の方向性というのはこれまで議論していなかったもので、本日はその点についてご議論いただきたいという考えでお出しした。

B委員

人権意識と平和意識は変化の方向性には入っていないが、これは現行のままということか、または重要性が弱まったということか。また資料中のBの部分は外国籍市民への支援になっているが、私自身の意見としては、外国籍市民への支援よりも女性に関する問題のほうが重要であると思う。そうしたことも意見として書けばよいのか。

事務局

そのとおりである、事務局レベルで再整理をさせていただき、皆様のご意見から変える必要があると判断した場合、施策を組み替える予定である。

C委員

外国籍市民や女性への支援はあるが男性についての記述がない。団塊の世代の男性がどのように生きるかというのは重要なテーマだと思う。

事務局

その点については、団体ヒアリング中で団塊の世代対策が重要なテーマとして挙がっていた。市民主体のまちづくりや、コミュニティ活動などとして入ってくると思う。人権であるとか、外国人、男女平等についての意見があるが、地域の協働で、地域コミュニティ、多世代交流があり、また地域の交流は国際化にもかかっている。前期の計画の中で受け継ぐものとりリニューアルするもの、そういったことを考えていきたい。

D委員

例えば創1-2-2外国籍市民への支援は「外国籍市民への支援活動を支援」と変わったとしても、何が変わったのかよくわからない、結構そういったものが多い。そうすると、体系を変えるのを議論してほしいといわれても困る。

事務局

実際のところそういったご意見もあると思うが、体系の組み替えよりも変化の方向性やキーワードについてご意見をいただきたい。

斎藤会長

施策を強調する場合、どういったことになるのか。我々にとっては、委員が議論した内容がどのように反映されるかというのが関心事だと思う。

A委員

市の取り組み内容がわからないので、事業群や仕事の内容についてどう表現したらいいかわからない。それよりも、例えば諸外国からいろいろな方が来てこのような変化があった。だから市としてはそれに対応しなくてはならない、といったことのほうが大事である。例えば「外国籍市民への支援活動を支援します」というのも、私からみれば同じように見えてしまう。市の仕事を熟知していないとわからない。

事務局

最終的な仕上がりとしては、前期は施策体系、施策内容があって、具体的な事業を後ろのページに掲載している。基本的には一つの施策について後期に向けたキーワード、これに向けた目標、施策内容、達成指標、事業内容を1ページに掲載することを考えている。施策については、ご指摘のとおり市は事業が核になっている。大幅な入替えという発想ではないため、先ほど何が変わったのかわからないというのはその通りだ。ある意味5年前に作成した地球市民意識の醸成というのは、現在は多文化共生や外国籍市民というようになった。全体としてどこを見直したか、また何がわかりにくいかということを我々も理解したので、今後市民向けに作成していくときは気を付けたいと思う。また人権意識については今までの施策体系から特に変える必要がないので特段変更せずそのままとする。国際化については、今までの外国籍市民、地球市民というよりは少し多文化共生といったところに重きをおくので少し変える。男女平等については、女性の自立支援の課題出しがあった中で、前期までは参加・促進とわけていたところを、取り組みとして両方取り組んだほうがいいのではないかとあたりが出てきている。人権擁護といったところは自立支援といった方向性に、そういったご理解をしていただければと思う。ただ、それだけでなく、さきほど男性の視点もあつたほうがいいのではないかとといったご意見も伺えればと思う。事業まで見ていただかないと、非常に見えづらく議論しづらいと思う。

A委員

10年前と現在でどのような変化があるのか。母子家庭が増える、子どもが減る、国際化が進む、といったことから問題が出てくるので、市として対応していかなければならないことがわかってくる。そのようなことを、委員の意見を聞き、どの項目にあてはめていくかということ議論すべきである。既にある細かいことをどういう風に表現するかとなると専門外になる。そのような気がする。

C委員

現状市でこういった課題があるというのを出してもらう。その中から我々がキーワードを考えると手法だと議論ができる。しかし、このように突然キーワードを見せられては議論ができない。予算に限りがある中での話なので、全部対応できるはずがない。

事務局

今ご議論があつたとおり、行政内部がわからないと施策体系のことも分からない。それは当たり前のことであると考えている。この資料に事業群の案が細かく書いてある。これ

は庁内や関係者のヒアリングを聞いてあくまで案として出したものである。結局、事業群と施策を照らし合わせてやっていかないと見えづらいというのはご指摘の通りである。国際化について申し上げますと、こうした施策とは別に現在西東京市には3,000を超える外国人の方が住んでいる。必ずしも日本語が達者な方ばかりではないので、例えば情報誌など国が持っている施策とは違う地域ならではの施策が必要になる。国際化という言葉では表しきれない部分がある。

斎藤会長

活発に議論していただいているが、変更していい部分とそうでない部分、基本構想は変更できないことは理解している。具体的な部分でいうと、創1-1は変更できない、創1-1-1変更できると認識しているがどうか。

事務局

創1-1から基本的には変更できる部分である。最初の枝の創1レベルは理念的なもので、10年間の目標で修正ができないとご理解いただければと思う。

斎藤会長

我々は実施計画まで議論できるわけではない。長期的な要望として、文言を残していくことができるのか。後で説明される話で、事業群になると、この審議会で決めるわけではないということか。

事務局

まだ、来年度以降、市民参加、行政の作業の中で議論していこうと思っている。もっと大きな課題としては、財政上の問題があり、できるものとできないものをはっきりと示さなくてはならない部分がある。調査からひろってきた事業群を一応活かすという一つの形であると考えている。事業群については、まだ途中段階であるので、ご指摘を受けて各事業課に確認をする。来年度4月以降、庁内では総合計画よりも細かい個別計画を持っており、そちらでつめていくこともできる。個別計画の方向性が見えてくる6月以降、総合計画と個別計画との整合性をとる必要があると考えている。

E委員

各委員の意見を伺っていて、それぞれによって立つ根拠が違うのではないかと思う。調査の結果からキーワードが出てきて、変化の方向性があり、施策の変更があって事業があるということであるが、調査の結果はもう少し書き込んだほうがいいのではないか。例えば外国籍市民については、庁内で出た意見や自由意見での意見を記入し、その上で議論したほうがよいのではないか。

F委員

先ほど会長がおっしゃったように、審議会で変更できる部分とそうでない部分を把握し、その中で調査結果などを情報として与えていただいた中で、今後5年間、前期5年間のものを継続すべきか、若しくは時代遅れだという判断を大枠としてつかむ必要があるように思う。その大枠の中で行政が個々に考えている施策が事業群にあり、当初、この事業群についても検討していくものと感じていた。

G委員

全体資料1と2の関連というところを読んでいくと、協働のまちづくりについて意見ができると思うのでコメントするが、計画的にはだいたい進んでいくかと思う。市民と行政の協働というより、協働はあくまで団体同士であって個人と行政ではない。言葉の使い方がどんどん変化してしまっている。事業のところになってくると、協働のまちづくりのことではない、コミュニティの創造の方に入ったほうがいきてくるのではないかと思う。であるので、大きいところを合意していきながら、細かい事業のほうにいかなければならない。議論が進まないのも、もう少し進め方を変えていただきたい。残りの審議会の数も少ないので、なるべく最後まで議論したいと考えている。

事務局

3月に会議を開き、4月に中間のまとめという形で考えていきたいのだが、今整理が難しくなっており少し組み替えていかないときちんとした議論が難しいのではないかと感じている。中間報告までに組み替える必要があるのではないかと考えている。

斎藤会長

事務局と本日の議論について大きな合意をさせていただいて、作業にかかりたいと思う。我々の議論では、事業の細かいところではなく、計画そのものにかかわる議論を行いたい。幾つか問題点があって、我々の議論はこれまで市民意識調査の上に立つものだった。行政の内部の議論もあり、委員の創意を入れてもいいという話もあった。それから、私のほうでコメントした変更できる部分はどこまでかということで、理念と実際の事業とは離れている部分があるが、この事業を導くような計画はつくることができる。こういったことを踏まえて、先ほどの議論に戻ってやり方についても議論させていただきたい。資料1に委員からの意見という欄がある。事務局では委員にこの部分を記入していただくことを想定していた。しかし、先ほどの議論では、急にここを書くのは難しい。その前段に議論が集中してしまった。

事務局

意見として出し切れないものは後でいただければと思う。そうすると資料3を中心として、施策の体系、素案に落とし調整していきたい。イメージとしては枝1ごとに案をつくりある程度まとめていきたい。先ほどスケジュールでご説明申し上げたとおり、これを基に中間のまとめとしていきたい。今後は、網羅的に議論するのではなくて、意見集約していくことで、この形で整理させていただいたほうがよいと考える。時代感覚とあっていないのではないかと、表現として足りないということがあれば、もう一度事務局で整理をさせていただきたい。

斎藤会長

今日の話の感想だが、個別の議論よりは、全体の内容を議論したほうがよいように感じる。

事務局

今日は個別のところ特に気になった部分にコメントいただいて、背景を含めて中間のまとめに向けた素案として資料整理したい。次回これをお示しし議論していただきたい。

斎藤会長

資料の委員の意見の部分に書いていただくというのが1つ、全体的にこういう考えがよいということがあれば、それも記入していただくということでよいか。

事務局

中間のまとめに向けた素案として作りこみをさせていただいたほうが次の議論がぶれないと考える。3月もう1度会議を開催し、整理した上で中間のまとめと考えている。もう1度会議を開催させていただくことをご了承いただければというのが今日の会議の全体的な感想である。

H委員

委員の皆さんの議論を聞くと、施策内容があまり変わっていないというのが大方の意見である。そう考えると、委員の方々の意見もあると思うので、それをお出しいただいて、それを含めて、おそらく枠組みから少しもれている部分があるはずである。その辺も最終的には入りきれない部分もあると思うが、今後の展開も含めて何かしらの形で残していけるように考えていかないかと思っている。

事務局

そうすると次回は、あくまで施策体系に沿ったものになっているから、後期の基本計画の最終的な内容のものになる。収まりきらなかったもの、アイデアなどは提言として整理

していきたい。今後、皆さまのご専門による議論をつめ、次の展開に持っていくと課題などが出てくると思う。

E委員

基本的にはご提案いただいた内容でいいと思う。アイデア出しで頂いた内容を資料3に再度落とし込んで、また見るというのがよいと思う。

C委員

今すぐでなくてよいが、財政配分などについても教えていただきたい。それを通して、どこが重点なのかというのが見えてくるかと思う。

G委員

現状とともに、5年先、10年先がどのようになるのかという予測もあると、コメントしやすく施策を考えやすいと思う。現状分析、今後分析もあるとわかりやすいと思う。

事務局

今後用意させていただきたい。今回は3月26日水曜日を考えている。時間については改めて連絡させていただく。大変恐縮であるが、3月7日までに、事務局は意見の提出をお願いしたい。